

CONTENTS

- 戦後60年企画 「沖縄写真館」…………… 2  
1960年代その② 東京オリンピックと興南旋風
- 県政フラッシュ…………… 4
- 特集1 …………… 6  
最近よく聞く“アスベスト”についてお答えします
- 特集2 …………… 8  
犯罪のない、日本一安全・安心な沖縄県を目指して
- 特集3 …………… 10  
未来の大人たちのために今、私たちができること
- ハイサイうみとも 海のともだち …… 12  
「アカネダルマハゼ」
- うちな〜かこぶ …………… 14  
興南高校ハンドボール部監督 黒島 宣昭さん
- 県のうごき …………… 16  
知事視察広聴 佐敷町・知念村・玉城村・大里村
- 情報ひろば …………… 18  
おしらせ
- お届けします! わした便り …………… 20
  - 平良市 宮古島の水源・水質の保全を呼びかけ  
「第17回天女の水まつり2005」
  - 伊是名村 いせな尚円王まつり  
「尚円王金丸杯・第10回伊是名ヨットレース」
- 石獅子見聞録…………… 21  
西原町桃原・呉屋

●表紙写真  
沖縄の海と島と空の「やすらぎ」をテーマにした写真を  
紹介します。  
10月号表紙写真【宮古島】  
カメラマン：北島 清隆 <http://k-kitajima.net>

■ 沖縄県広報誌「美ら島沖縄」について ■

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」は、県の行政についての情報や、  
県内各地域の情報をわかりやすく県民のみなさまにお伝えす  
る冊子です。  
公共機関や学校、銀行、病院など多くの方が利用する施設でご  
覧になることができるほか、沖縄ファミリーマートの店舗で無料  
配布しています。

沖縄県広報協会(県広報課内)TEL:098-866-2020

# 沖縄写真館

一九六〇年代その② 東京オリンピックと興南旋風

第二次世界大戦の終了から六十  
今年、本誌では戦後から一九七二年五月  
十五日の沖縄の日本復帰までの様子を  
写真を中心に紹介します。  
沖縄県公文書館の協力の下、戦後の  
沖縄を明るく、たくましく生き抜いた  
人々の様子を年代順に紹介します。



五輪旗とともに掲げられる日本国旗と米国旗 1964年9月8日

手前の石碑が聖火宿泊碑(久志村嘉陽)(琉球政府関係写真 009154)



本土-沖縄間マイクロ回線開通 1964年9月1日

マイクロ回線開通式典で記念通話を行う大田政作行政主席  
(琉球政府関係写真 010702)



興南高校、夏の甲子園大会ベスト4入り 1968年8月31日

甲子園大会ベスト4入りを果たし、国際通りを凱旋パレードする選手たち  
(琉球政府関係写真 027815)

東京オリンピックの開催を機に、一  
九六四年九月一日、日本本土と沖縄  
本島間に本土-沖縄間マイクロ回線  
が開通し、沖縄でもオリンピックの実  
況放送の視聴が可能になりました。  
本県におけるテレビ放送は本土より  
六年遅れの一九五九年にスタートし  
ていましたが、番組空輸テレビ電波  
再生方式によるもので、この回線開通  
により本格的なテレビ時代が到来し  
ました。

同年九月七日には東京オリンピッ  
クの聖火が那覇空港に到着し、五日  
間にわたる聖火リレーが幕開けしま  
した。「世紀の祭典」といわれる東京オ  
リンピックの聖火を開催国として最  
初に迎えることができた喜びと日本  
本土復帰への思いが重なり、沿道は日  
の丸の小旗を持った人々で埋め尽く  
されました。翌八日は、一夜を過ごす

久志村(現在の名護市)嘉陽において  
盛大な式典が催されました。聖火の一  
部は九日に九州へ飛び立ちました。が  
残りの聖火は予定どおり西海岸を回  
つて那覇に入り、十一日に九州へ飛び  
立ちました。

本土との結びつきが強くなる中、一  
九六八年八月、興南高校が夏の甲子  
園大会で県勢初のベスト4入りを果  
たしました。その前年に、佐藤-ジョ  
ンソン日米首脳会談において沖縄の  
施政権返還が確認され最高潮に達し  
ていた沖縄の本土復帰への関心とと  
もに、彼らの快進撃は沖縄全体に旋  
風を巻き起こしました。

そして、翌一九六九年、佐藤栄作総  
理が一九七二年の沖縄本土復帰の声  
明文を発表し、着々と本土復帰の準  
備が進むのです。



東京オリンピック聖火リレー 1964年9月8日

コザ市~中城村間を走る聖火ランナー (琉球政府関係写真 008983)

このコーナーの写真の使用・転載など  
につきましては沖縄県公文書館  
☎098-888-3875  
までお問い合わせください。

